

ボランティアセンターへおこしください！

栄区社会福祉協議会ボランティアセンターでは、ボランティアに関する相談や登録、活動の紹介を行っています。

「ボランティア活動って、どんなものがあるの?」、「興味はあるけれど、何をしていいか分からな
い…」という方もご安心ください。専任のボランティアコーディネーターが対応します。

ボランティア活動に決まりはありません。あなたのできることを、できる範囲で。もちろん、あなたの“好き”なことを活かしてできる活動も、きっとあるはずです。ぜひ、お気軽にお問い合わせ・
お立ち寄りください。

・ボランティア活動が始まるまで……

はじめの一歩

お気軽にボランティアセンターへ。
(お電話でのご相談も可能です。)

専任のボランティアコーディネーターが、お話を
お伺いします。
一緒に、あなたに合った活動を探しましょう！

コーディネーターが、活動先と
あなたとの間にあって、活動へ
向けての調整をします。

さあ、活動へ！

活動を始めてからも、心配や不安があれば、ボラ
ンティアセンターへご相談ください。

栄区社会福祉協議会 善意銀行のご案内

善意銀行とは、地域のみなさまからの善意の寄付をお預かりし、支援を必要と
するところに配分する仕組みです。

あなたの気持ちが地域の活動を支えます。

例えば、さかえふれあい助成金の財源の一部として、
配食・会食などの食事サービス、送迎、家事支援、ミニデイサービス、サロン、
音声訳などのボランティア活動の支援、障がい当事者活動などの支援、その他、
福祉推進のための活動支援など、区内の活動団体へ配分されます。



J R : 根岸線「本郷台駅」下車徒歩 10 分
バス : 神奈中・江の電「栄警察署前」下車徒歩 3 分
神奈中・江の電「栄区役所前」下車徒歩 3 分

ボランティア活動を始める前に… リスクに対する心構えと準備

依頼者の役に立ちたいという気持ちから、いろいろと引き受けた無理をしてしまうことがあります。そうしき活動は長続きしないだけでなく、トラブルにつながることもあります。できること、できないことをきちんと伝え、時には断る勇気も大切です。

また、活動中や行き帰りの事故に備えて、ボランティア活動保険の加入をお勧めしています。

リスクへの心構え、備えを忘れずに。また、困ったこと、わからぬことは一人で抱え込まず、ボランティアセンターにご相談ください。

*ボランティアセンターの窓口では「全国社会福祉協議会ボランティア活動保険」の加入を受付けています。

横浜市栄区社会福祉協議会 ボランティアセンター

受付時間 月～土曜日 午前 9 時から午後 5 時まで

TEL 045-894-8521 FAX 045-892-8974

第87号

保存版

平成25年2月1日発行

発行 社会福祉法人横浜市栄区社会福祉協議会
栄区桂町279-29
ピアハッピィ栄(栄区福祉保健活動拠点内)
☎: 894-8521 FAX: 892-8974
E-mail: office@sakaeku-shakyo.jp
URL: http://www.sakaeku-shakyo.jp

栄区承認番号126号



保存版!! “好き”を ボランティア活動に!!

パン作り



音楽



ガーデニング



車椅子ダンス



南京玉すだれ



ピアハッピィ栄
マスコットキャラクター
そらちゃん

みなさんはボランティア活動というと、どんなものを思い浮かべますか？高齢者のお相手や福祉施設での活動、街の清掃などを想像する人が多いのではないでしょうか？もちろん、そういう活動もありますが、中には自分の“好きなこと”で活動をしている方もたくさんいます。

今回は保存版として、そんな“好き”を活動にしている方たちにお話を聞きました。



。。・ボランティア座談会・・・

今回は、"好き"をボランティア活動にしている3の方に集まっていたり、活動を始めたきっかけや、心がけていることなど、いろいろなお話を聞いてみました。
普段なかなか聞くことの出来ない、生の声をお届けします。

Q ボランティア活動を始めたきっかけは?

大井：長女が「劇団ぽかぽか」関係の演劇、次女が「び～ひゃらどん」で活動をする中で、大道具作りや太鼓運び等、子どもでは出来ない部分を手伝うようになったのがきっかけです。最初はどうちらかというと、やらざるをえない状況で始めた、という感じでした。

石川：当時所属していたシニアクラブの10周年記念のパーティーで、バンドを結成したのが始まりでした。本当はパーティーにBGMが欲しいくてバンドを呼びたかったのですが、そんな予算も無く、「じゃあ自分たちでバンドをやろう」ということになり、そこからバンド活動を続けていました。ある縁でミニディサービス どんぐりに呼んでもらい、演奏をしたことがボランティア活動の始まりでした。

谷藤：みんなのきっかけを聞いているとちょっと言いにくいのですが、私は趣味を持っていなかったんです。子どもと会話をしていたときに「今年は趣味でも探してみたら」と言われたりもしていて…。そんな時、栄区社協で開催している手話入門講座を知り、参加したところ、手話が楽しかったというのがきっかけです。

Q みなさんにとてボランティア活動とは、どんなものですか?

石川：一言で表すと「自分の趣味・喜びを人様に分配する」ということです。

谷藤：初めて見つけた趣味が、誰かの役に立つということですね。

大井：「つながり」ですね。活動で知り合ったお父さん同士でも、声を掛けていただく機会が増えました。SNSなんかも、今は良く使われていますけど、そういったつながりとはまた違うものだと思っています。



大井 義之さん（48歳）

子どもの和太鼓演奏グループ「び～ひゃらどん」と「劇団ぽかぽか」にて活動中。平日は仕事、週末はボランティア活動と頑張る、お父さん世代。

谷藤 あけみさん（50歳）

手話サークル「希」にて活動中。入会してから1年少し、ということで、日々勉強中。自分の空いた時間を活動に使っている、お母さん世代。

石川 治さん（78歳）

「さがえシニアバンド」にて活動中。団体の代表も務める。仕事を定年退職し、セカンドライフとしてボランティア活動をしている、シニア世代。



今回、参加してくださったのは、この方々です！



Q 普段の活動を教えてください

大井：「び～ひゃらどん」では、太鼓運びなどの裏方作業をしています。「劇団ぽかぽか」では、主に大道具作りと黒衣をやっています。どちらもボランティアをやっている、という意識はなくて、自分が楽しんでやっています。

石川：月に1回ほどのベースでサロンや福祉施設などに呼んでいただき、毎回10曲前後を演奏しています。好きなことで活動をして喜んでもらえるなら、こんなに良いことはないと思って活動しています。

谷藤：毎週火曜日にピアハッピィ栄で、手話サークル「希」の活動に参加しています。また、「希」のメンバーとして、今年度はふれあい運動会にも参加しました。活動を通して、自分の周りにもいろいろな人がいるんだな、ということにも気づきました。



Q ボランティア活動で心がけていることはありますか?

大井：活動全てに参加しようとして、無理をしないようにしています。それから、子ども達の成長も楽しみながら、活動をしていますね。

石川：やってみて喜んでもらえたことを覚えておいたり、勉強しながら活動をしています。あとは、私自身「明日は我が身」だと思って、優しい気持ちで活動をしています。

谷藤：まだまだ私自身は手話の勉強中ですが、上手になったら、手助けを求めている人たちのお手伝いが出来れば良いなという風には思っています。でもそんな日は遠いかも…。



Q 日頃活動にお忙しいと思いますが、大変だと思ったことはないですか?

石川：幸いにも、困ったことや大変なことはないですね。好きなことで活動が出来てますから。

大井：僕もあまりないです。土日に活動しているので、週末が仕事になってしまった時は困りますけどね（笑）



谷藤：入門講座が終了して初めて「希」で活動をするときに、簡単な手話で自己紹介をしました。その後に、「希」のみなさんもあいさつをしてくれたのですが、1年後にここまで出来るかな、という気持ちになりました。でもやっぱり、手話が楽しかったので続けられました。



Q お話を終えて・・・

石川：おふたりとも全然違う世界の方みたいで、気持ちを見習わなければいけないな、と思いましたよ。私みたいに遊んでいることが活動につながっているというのとは違いますから。

大井：いや…、どちらかというと、私も好きなことをやっていて、ボランティアという意識あまり無いです。やっているのが当たり前という感じなので…。もちろん活動はこれからも無理せず続けていきたいと思っています。

谷藤：私はまだ、ボランティア活動を始める準備をしている段階だと思っているので、おふたりを見習って、楽しいことをしながら、ボランティア活動をしていければなあと思いました。



お話を聞いている中で、みなさん本当にご自身の好きなことを活動にしているんだな、ということを感じた時間でした。どの方も「ボランティア活動をやるぞ！」という理由で活動を始めた訳ではなかったように、ボランティア活動への入り口はいろいろな所にあると改めて思いました。「私の好きなことも、ボランティア活動になるかな？」と少しでも興味を持った方は、4面もぜひご覧ください。